



## 「二次破綻」天野屋の悲劇

企業倒産には、大きく2つのパターンがあることをご存じでしょうか。

ひとつは、債権者の協力を得て事業継続を目指す「再建型」で、民事再生法や会社更生法が当てはまります。もうひとつは文字どおり、会社をたたむ「清算型」で、多くが破産手続きによって処理されています。

2019年度の企業倒産のうち、96%が破産を中心とする「清算型」でした。民事再生法を中心とする「再建型」はわずか4%。このように、「再建型」はそもそも“狭き門”なのですが、そのうえ、民事再生法申請後に“二次破綻”するケースが少なくありません。今回紹介する、温泉旅館経営の「天野屋」（神奈川県伊勢原市）はまさにそうした事例です。昨年10月の民事再生法から半年あまりで再建が頓挫し、破産手続き開始決定を受けるに至りました。

### 長年観光客で賑わうも、債務超過に陥る

「天野屋」の創業は、太平洋戦争の開始前年の1940年にさかのぼります。「伊勢原温泉ニュー天野屋」（本館、新館2棟）を長年にわたり経営し、ピーク時には団体宿泊客や大山観光などの日帰り観光客で賑わっていました。2001年5月期には年収入高約2億円を計上していましたが、近年は施設の老朽化が進み宿泊客が減少。2019年5月期の年収入高は約8,500万円にとどまり、連続赤字から債務超過に陥りました。年商を大きく上回る借入金も重荷となり、

同年10月に民事再生法を申請しました。

### 新型コロナウイルスの影響で再建ならず

法的手続きを通じて、過大な債務をカットすれば事業を継続できる——。おそらく「天野屋」の経営陣はそう考えていたはずですが。

しかし、その計画を大きく狂わせたのは、新型コロナウイルスの感染拡大でした。同社が今年1月末に裁判所へ提出した再生計画の柱は「インバウンド需要の取り込み」でしたが、国内でも日を追うごとに感染が拡大するなかで、中国人観光客を中心とするインバウンド頼みでは再建が難しい状況となり、事業継続を断念。

5月8日に横浜地裁小田原支部から破産開始決定を受け、80年の歴史に終止符を打ちました。

### 今後、さらなる影響も…

帝国データバンク調べによれば、新型コロナウイルスの影響を受けた倒産は、全国で408件に達しました（8月4日16時時点）。このうち、「ホテル・旅館」は48件にのぼります。頼みの綱であった外国人観光客は激減しているうえ、第2波懸念の高まりもあって、国内旅行客の需要回復も今後どうなるかわかりません。夏の書き入れ時のお盆にうまく集客できなかったホテル・旅館の中から、倒産に追い込まれる企業がさらに出てきたとしてもおかしくないでしょう。全国各地のホテル・旅館経営業者にとっては、受難の時がしばらく続きそうです。●